

総論

満点	50点	目標得点	40点	試験時間	60分	偏差値	70
大問数	7	小問数	42				
【解答形式】		選択式	23/42問	記述式	18/42問	論述式	1/42問
【問題難易度】		C	0/42問	B	10/42問	A	32/42問
※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す							

Topics

- 1：大問は1題減少、設問数は5題減少（昨年度比）。
正誤選択が昨年と比べると5問増加したが、地図問題・年代整序がなくなり全般的に易化した。
- 2：先史時代からの出題が久しぶりに登場。
2007年度にも小問として出題されている。受験生には盲点となる分野なので要注意。
- 3：出題形式・出題量・出題分野に大きな変化はない。
強いて言えば、今年はイスラーム関連史（小問1題）が少なかった。

こんな力が求められる！

【前年度合格最低点（3科目）】129.0 ※偏差値法による修正後の得点（得点率64.5%）
【前年度受験者平均点】30.0 ※素点（得点率60.0%）

早稲田大学の場合、偏差値法を用い、受験者平均点＝50%の得点（世界史の場合だと25点）に換算されるため、受験者平均点と同じ得点では合格ラインに達しないのである。つまり平均点＋10%程度の得点を稼ぐ必要がある。加えて、今年度の文学部の世界史は、前年度よりも易化したので、平均点より15%以上を上積みした得点（すなわち75%以上）を稼ぐ必要がある。では、今年度の問題でどのような力を身につければ75%以上の得点に達するのかを考えていこう。

まず、上表の問題難易度で「A正答すべき問題」をすべて解答すると42問中32問正解となり、約76%を得点できる。しかし、論述問題での減点や実際の配点が不明であることなどを考慮すると、安心できない。そこで、「B合否を分ける問題」を半分（5問）以上は解答できるようになることが望ましい。結論は、今年度の問題では37問以上（88%以上）を正答する力が求められる。実際、受験した生徒から「2問ミスだった」とか「90%近くいけた」という報告を受けている。一方で、「英語・国語が難しかった」という感想が聞こえてきた。つまり、早稲田文学部合格を目指す者にとっては「世界史はできて当たり前」で、ライバルに差をつける教科ではないのである。合否は英語と国語の得点率にかかっていると見えるだろう。

例年、難問や奇問はほとんど出題されない。つまり求められているのは教科書レベルの知識を「いかに確実なものにしているか」である。出題分野に関しても、古代～第二次世界大戦後まで洋の東西を問わずまんべんなく出題される。不得意分野を作らないように、お茶ゼミの授業→復習→Weeklyテスト85点以上といった学習ペースを構築しよう。さらに、美術史の図版資料は頻出問題なので、学校で使用している地図資料集などを必ず確認するクセをつけよう。

大問別分析

【I】

予想配点	5/50 点	時間配分の目安	6/60 分
出題分野・テーマ	文明の成立		
出題形式	記述式		
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 1：A 2：A 3：B 4：B 5：B		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	・3月期①1回 ・冬期講習「イスラーム史I」		

●本大問の特徴・概要

先史時代の農業・牧畜に関する出題。Topicsにも書いたが、固有名詞の暗記に終始しがちな受験生にとっては盲点となる分野である。難易度的には教科書レベルだが、文脈から解答を導き出せる力が必要である。

●注目すべき小問

3～5（B：合否を分ける問題）

3は、「温暖多湿な中国南部－稲とウシ・ブタ」に対応して「乾燥した西アジア－3とヤギ・ヒツジ」が読み取れるかどうか。つまり、「稲」に対応する麦（小麦）を導く。

4と5は、「北方の草原地帯－4がおもな生業」に対応して「東北の5地帯－狩猟・採集」が読み取れるかどうか。つまり、4は「狩猟・採集」に対応する「遊牧」を。5は「草原」に対応する「森林」地帯を導く。

地理的な知識があれば常識的に解答できる問題であるが、第1問から面食らう人もいるかもしれない。対策としては、年末から年始にかけて、学校で使用している教科書を精読しよう。これはセンター試験対策にも有効な学習である。

【Ⅱ】

予想配点 7/50点	時間配分の目安 10/60分
出題分野・テーマ 東アジア史上の諸民族	
出題形式 選択式（正誤判定）、記述式	
小問別難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 設問1：A 設問2：A 設問3：B 設問4：B 設問5：A 設問6：A 設問7：A	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 ・3月期②3,4回 ・4月期1,2回 ・冬期講習「中国周辺史」	

●本大問の特徴・概要

主に匈奴・鮮卑・ウイグルなど北アジアで活躍した民族に関する出題。前年度も出題されている頻出分野である。記述式の設問1・2・6・7は基本的な問題だが、1・2・6は正確な漢字で表記しなくてはならない。日頃から1点・1画もおろそかにせず、丁寧な字を書く習慣をつけよう。

中国周辺の北方民族については、まとめにくい範囲である。冬期講習（中国周辺史）を必ず受講して、入試直前には、そのテキストを総復習することが重要である。

●注目すべき小問

設問3（B：合否を分ける問題）

選択肢③の戸調式は晋（西晋）の税制で、一戸ごとに生産物（絹・綿）を徴収するもの。用語集では頻度②とやや細かい知識であった。早稲田合格を目指すなら、9月期までに基本的知識を定着させて、10月期以降の各国史（この場合は12月期の中国史）の授業で、やや細かい知識も身につけていきたい。

設問4（B：合否を分ける問題）

選択肢③は「ソグド」が誤りで「キルギス」が正しい。ソグド人は、中央アジアのソグディアナ地方のイラン系の商業民族。唐代に内陸商業貿易で活躍し、「胡人」と呼ばれる。オアシス都市を建設するほか、中国と北方民族間の絹馬貿易を仲介したり、西方の文物やゾロアスター教やマニ教などの宗教を中国にもたらした。キルギスはトルコ系民族で、840年にウイグルを滅ぼす。以後、ウイグル（トルコ系）が四散して中央アジアに移住したため、この地域のトルコ化が進み「トルキスタン」と呼ばれることになる。

設問5（A：正答すべき問題）

マニ教の成立はパルティアではない。3世紀前半、ササン朝ペルシアにおいてである。ただし、シャープール1世の時代を除いて、ササン朝では弾圧されたこともおさえておこう。

【Ⅲ】

予想配点 6/50 点	時間配分の目安 4/60 分
出題分野・テーマ 世界史上の都市にかかわる雑題	
出題形式 選択式（正誤判定）、記述式	
小問別難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 設問1：A 設問2：A 設問3：B 設問4：A	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 ・3月期①2, 3回 ・3月期②2回 ・5月期1, 2回	

●本大問の特徴・概要

設問3以外は基本的な問題。今年度は地図形式の出題はなかったが、地図上の場所も確認しておこう。授業や復習の際には、必ずテキストのWarm Upの地図や『お茶ゼミ世界史地図帳』あるいは学校で使用している地図資料集を利用して、逐次、確認していくことが大切である。

●注目すべき小問

設問3（B：合否を分ける問題）

ソフォクレスの代表作『オイディプス』の舞台がどこであるかは知らないだろう。そこで、細かい知識だが「エパメイノンダス」（ハイレベル・総合3月期テキストP.27参照）をキーワードにして解答を導く。彼は前371年のレウクトラの戦いで、斜線陣を活用してスパルタを破ったテーベの指導者。以後、テーベは10年間ギリシアの覇権を握った。しかし、前338年にカイロネアの戦いでマケドニア王フィリッポス2世がテーベ・アテネ連合軍を破り、ギリシア諸ポリスはマケドニアに制圧されることになる（前338年、スパルタを除く全ギリシア都市同盟であるコリントス同盟が成立）。

【IV】

予想点	9/50 点	時間配分の目安	12/60 分
出題分野・テーマ	中国史（五代十国～清）		
出題形式	選択式（正誤判定・語句選択）、論述式（25 字以内）		
小問別難易度	※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す		
設問 1	A	設問 2	A
設問 3	A	設問 4	A
設問 5	A	設問 6	B
設問 7	A		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	・ 4 月期 2, 3 回 ・ 6 月期 3, 4 回 ・ 12 月期 1～3 回		

●本大問の特徴・概要

基本的なレベルの問題ばかりだから、ここでのミスは避けたい。文学部で頻出の 30 字程度の論述が出されているが、難易度は標準的である。ただし、25 字という字数制限以内で文章をまとめるのは、意外に難しい。Master Training の文章を活用して、30 字程度の説明文を作る訓練をするとよいだろう。

●注目すべき小問

設問 1（A：正答すべき問題）

唐の滅亡年（907）と宋の建国（960 年）は覚えるべき年号。唐→五代十国→宋なのだから、即答できる問題である。主要年号は労をいとわず覚えていくことが大事である。

設問 3（A：正答すべき問題）

選択肢イは、「長子」ではなく「第 4 子」が正しい。ちなみに第 1 子はジュチ（バトゥの父）、第 2 子はチャガタイ、第 3 子はオゴタイである。選択肢ハは、ウマイヤ朝ではなくアッパース朝。選択肢ニは、フビライ=ハン（元の世祖）が南宋を滅ぼした（1279 年）。

設問 4（A：正答すべき問題）

選択肢ハは、「中国を統治するため」が誤り。猛安・謀克は、金の建国者である完顔阿骨打が女真人に対して施行した軍事・行政組織である。

設問 6（B：合否を分ける問題）

選択肢ハについて、「地丁銀制は雍正帝」と記憶していると間違う。康熙帝代の盛世滋生人丁の制定が地丁銀制の端緒になっている。そして、雍正帝代に全国的に施行されたのである。

選択肢イは『大義覺迷録』は雍正帝代、選択肢ロは『四庫全書』は乾隆帝代である。また選択肢ニは雍正帝ではなく康熙帝が正しい。

設問 7（A：正答すべき問題）

清朝が直轄地（満州・中国本土・台湾）と藩部（モンゴル・チベット・青海・新疆）にわけて統治したことを理解しているということを示せるような文章を作る必要がある。そこで、藩部の統括は理藩院が担当したことを書けばよい。

【V】

予想配点 9/50 点	時間配分の目安 10/60 分
出題分野・テーマ 15～17 世紀のヨーロッパ関連史	
出題形式 選択式（正誤判定・語句選択）、記述式	
小問別難易度 ※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す 設問 1～7：A	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 ・ 5 月期 3, 4 回 ・ 6 月期 1, 2, 4 回 ・ 7 月期 1 回	

●本大問の特徴・概要

易問。完全解答すべき問題。今年度は唯一、この大問でイスラーム（オスマン帝国）に関する設問が出題された。近年の出題傾向をみると、イスラーム史の占める割合が多いとはいえないが、昨年度は大問として 1 題出題されている。やはり偏ることなく、学習をしておかねばならない。

●注目すべき小問

設問 1（A：正答すべき問題）

センター試験レベルの正誤判定だ。選択肢ハは、アイユーブ朝ではなくマムルーク朝が正しい。

設問 4（A：正答すべき問題）

これもセンター試験レベルの正誤判定だ。選択肢イは、教皇党がゲルフで、皇帝党がギベリンである。選択肢ロは、メディチ家はフィレンツェの大富豪。15 世紀前半にコジモ=デ=メディチがフィレンツェ共和国の国家元首となり、孫のロレンツォの時代にフィレンツェの全盛期を現出した。また、フィレンツェが「君主政国家」となるのは 16 世紀にトスカナ大公国になってからである。

【VI】

予想点	7/50 点	時間配分の目安	8/60 分
出題分野・テーマ	バロック～19世紀の西洋絵画史		
出題形式	選択式（正誤判定・語句選択）、記述式		
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す		
設問	設問1：B 設問2：A 設問3：A 設問4：B 設問5：A		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	・7月期1回 ・夏期講習「近代史」「文化史」		

●本大問の特徴・概要

文学部では頻出の、図版を使用した問題。文学部を受験するものは、学校で使用している「地図資料集」などで写真図版を見ながら学習すること。ちなみに文学部美術史コースの教授陣の専門は、近世・近代西洋美術史（スペイン美術史）、古代・中世西洋美術史（ビザンツ美術史）、東洋美術史（日本の奈良美術）、中国美術史（仏教美術史）である。参考になるだろう。

●注目すべき小問

設問1（B：合否を分ける問題）

1838年時点のフランスの国家元首を選択できればよい。ウィーン会議（1814～1815年）でブルボン復古王政が成立し、国王ルイ18世（位1814～1824年）→シャルル10世（位1824～1830年）と続く。1830年の七月革命で七月王政が成立し、オルレアン家のルイ＝フィリップ（位1830～1848年）が即位。そして1848年の二月革命で第二共和政が発足し、ルイ＝ナポレオンが大統領に就任するが、1852年に彼がナポレオン3世（位1852～1870年）として即位して第二帝政となる。

設問3（A：正答すべき問題）

図版1は、スペイン＝バロック絵画を代表するベラスケスの作。したがって同じ17世紀の画家レンブラント（オランダ画派の代表）の「夜警」を選ぶ。言うまでもなく、「最後の晩餐」はレオナルド＝ダ＝ヴィンチ、「ヴィーナスの誕生」はボッティチェリでルネサンス時代の作品。「ムーラン＝ド＝ラ＝ギャレット」は19世紀の印象派の巨匠ルノワールの作品である。

設問4（B：合否を分ける問題）

クールベの代表作と言えば「石割り」が教科書などに掲載されているので、「オルナンの埋葬」は知らないかもしれない。またドガについても用語集に出ていないのでマニアックと言える（ただしお茶ゼミのテキストは記載有）。しかし、基本的な知識を使って消去法で解答を導ける。選択肢口の《考える人》はロダン、《モナ＝リザ》はレオナルド＝ダ＝ヴィンチ。選択肢ハの《民衆を導く自由の女神》はドラクロワ、《ひまわり》はゴッホ。選択肢ニの《ゲルニカ》はピカソ、《すいれん》はモネである。

設問5（A：正答すべき問題）

図版2と3は知らなくてよい。設問文中の「ナポレオン軍による処刑を描いた」から解答できる。もちろん「(1808年)5月3日の処刑」を描いたゴヤである。

【Ⅶ】

予想配点 7/50 点	時間配分の目安 10/60 分
出題分野・テーマ アメリカ合衆国の外交史	
出題形式 選択式（正誤判定・語句選択）、記述式	
小問別難易度 ※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す 設問1：A 設問2：A 設問3：A 設問4：A 設問5：A 設問6：A 設問7：B	
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連 ・7月期2回 ・夏期講習「近代史」「現代史」 ・冬期講習「アメリカ史」	

●本大問の特徴・概要

2006年度にも大問で19世紀のアメリカ史が出題されている。設問7のラテンアメリカ戦後史はやや難しいが、ほかは基本的な問題である。そして、やはり文学部西洋史コースの教授陣のなかにアメリカ史を専門とする教授がいる。早稲田大学のホームページを調べれば、教授の専門分野が分かるから、ほかにどんな教授がいるか見てみよう。

●注目すべき小問

設問4（A：正答すべき問題）

選択肢は、第4代マディソン大統領の時代である。

設問7（B：合否を分ける問題）

アルゼンチンのペロン大統領（任 1946～1955、1973～1974年）は、反米的な民族主義を掲げて国家社会主義政策を行った。具体的には、アメリカ系・イギリス系の外資系企業の国有化、労働者の保護などである。したがって、「アメリカの支持を得て」が誤り。